

理研会報

発行日：令和6年2月29日
号数：No. 414
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：<http://rikainba.com>
メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

令和5年11月3日に千葉市の各会場で第73次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で、中学校、小学校ともに3部会が推薦され、駒居先生（滝野中学校）、川本先生（印西中学校）、廣納先生（内野小学校）、石橋先生（西の原小学校）の4名が研究発表を行いました。印旛の代表として堂々と発表して下さったそうです。ありがとうございました。感想をいただいたので掲載します。

印西市立滝野中学校 駒居 拓磨先生

印旛支部の研究主題は「思考を深める生徒の育成～正確な記録のためのタブレットの活用～」とし、印西市・白井市の理科教員の実態調査や市内11校の生徒の授業前後における意識調査・比較を実施し、モデルワークシートをもとに各学校で授業実践に取り組んでもらいました。実験結果をタブレットで撮影し見返す前と後の実態調査を比較すると、結果（事象）を比較したり関連付けたりする生徒が増加しました。また、ワークシートの分析により、複数の結果（事象）を根拠にして考察を述べている生徒が多数見られました。

全体では、動画で記録したものを何度も見返すことができる手法による効果について評価をいただきました。また、実態調査における研究に向けた多くの教員の協力体制や生徒のデータ収集量について評価をいただきました。一方で、実態調査の割合について「%」ではなく「人数」で示すこと、事前と事後の人数がそろっているものかどうか、などのご指導やご指摘をいただきました。

また、他支部の発表においては、地域にある題材を生かした生物単元の授業実践、ICT機器を活用した地学単元の授業実践、ポートフォリオの効果的な活用法、などの興味深いものがありました。県教研に参加し、今後の授業実践や研究に生かしていきたい内容ばかりでした。このような貴重な機会を体験させていただきありがとうございました。

今年度の提案の研究主題は「理科学習における問題解決の力の育成～生きて働く知識・技能の習得と活用を意識した学習を通して～」として、実践しました。

- ①驚きや感動のある体験活動を経験することで、理科のおもしろさや有用性を感じ、次への学習につながる生きて働く知識・技能を身につける。
- ②前段階までに習得した生きて働く知識・技能を活用する場面が意図的に設定された課題に対し、児童は既習の内容や生活経験を基に、自分の言葉で根拠のある予想や仮説を考える。

この生きて働く知識・技能の習得と活用を繰り返すことで、問題解決の力の育成を図るという提案でした。

分科会では、事前事後の児童の変容の見やすさや習得と活用の流れの有効性について評価をいただきました。また、この習得と活用の形を他学年、他単元でも研究して行ってほしいと言われました。

他支部の発表においては、地域の自然や人材を生かした実践、地域の特殊な地層を単元計画に組み込んだ実践、理科の見方や考え方を意識した実践モデルプログラムの作成と活用、OPPシートを用いた振り返りを重視した実践など、どの支部もいろいろな工夫があり、参考になるものばかりでした。県教研で学べたことを今後の授業に生かすことはもちろん、他の先生方にも広めていきたいと思いました。

このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

第三回役員会及び第二回研究員集会

令和6年2月22日(金)に成田小学校を会場に第三回役員会と第二回研究員集会が行われました。今年度の事業や来年度の事業計画について、それぞれの部会の研究の進捗についてなどの報告等がありました。



千理研千葉大会

11月24日(金)に千葉市立緑町中学校、緑町小学校を会場に千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会(千理研)が行われました。印旛からは以下の先生方が代表として分科会で活躍されました。

発表者 印西市立滝野中学校 駒居拓磨先生(中・科学)

指導者 印西市立小林北小学校 森下康彦先生(中・物理)

司会者 印西市立高花小学校 小島 実先生(小・物理)